水産学部長あいさつ

学部長再任に寄せて

水産学部長
野　呂　忠　秀(49Z)

平成20、21年度に引き続き、22、23年度も学部長を拝命することになりました。当学部では学部長の任期を2期4年までと定めていますので、私にとって今期は学部長としての最後の任期となります。1期目の経験を活かしつつ母校の発展に向け思い切った舵取りをさせていただきますので、ご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い致します。

（1）過去２年間を振り返って

これまでの2年間は、不破茂教授（48G）と増田育司教授（49Z）に教育担当副学部長をお願いし、また安永政喜総務係長（57化）はじめ多くの教職員に学部の運営を助けていただきました。

この間に、井上喜洋教授、坂田泰造教授、田中淑人教授、益満侃船長、吉永圭輔講師（以上平成20年度退職）、安藤清一准教授、川村軍蔵教授、中村薫教授、永松哲郎教授（以上平成21年度）が退職なさいました。これにかわって、8名の教員を既に昇格または外部公募により採用することができましたし、いくつかの公募は現在も継続しています。ちなみに、この5月にはMiguel准教授（H4M）が元留学生としてまた外国人として初めて学部の教授に昇格したことは、魚水会にとっても朗報です。

さらに学部では学部長裁量経費を設け、教育や研究に貢献して下さる教職員に配分し学部の活性化につなげています。また、文科省の教育研究高度化支援事業による大型補助金を取得し、これも学部の研究活性化のために使わせて頂きました。同窓の皆様が夏に汗と降灰に悩まされた学生実験室もすべて改装し、全室にエアコンやドラフト換気装置をつけました。また、附属練習船かごしま丸の代船（920t）も目下新潟で建造中、平成23年度末には完成の予定ですが電気推進のハイブリッド船になるそうです。さらに、現かごしま丸（1,170t）は文部科学省の教育共同利用施設に認定されましたが、これも全国初の事例としてマスコミにも取り上げられました。

また、平成21年7月にはかごしま丸に理学部や他大学の研究者、日本天文学会の方々や高校生を招いて、世界初の練習船による皆既日食の洋上観測が仁科文子助教の活躍で行われました。

（2）わくわくする教育と研究の実現に向けて

しかし、学生の教育に関してはまだまだ改善を要することが山積しています。気が付けば、学部の実習実験科目が大幅に減少してしまっていたことや、2年時に行われる分野への配属が学生に不評であること、卒論研究や修士論文研究について行けない学生（いわゆる「卒論を書けない症候群」）が目立ち始めたことなど、学部レベルの改善が必要となっています。

従来はISOで学部の教育を管理する「学務統合管理システム」を行うことで、外部の評価関係者の注目を集め

た水産学部ではありますが、そのための会議や事務が煩雑になり、教員本来の教育や研究の時間を圧迫するようになりました。今後は、このシステムを進化させ、さらに実効性の高いものに改善する積もりです。

大学法人化以降の過去6年間、文科省の方針もあって、教育第一、研究はその次と考えた水産学部でした。その結果、研究は教育の余暇にするものとの雰囲気が学部内に生じるようになり、教員に閉塞感が生まれる羽目になりました。この弊害をなくするために、今後は研究の必要性をもう一度再確認しつつ教育と合体させることを考えています。そこでは教員や院生が「わくわく」して研究に取組む姿を見せることによって、学生に「わくわく」する教育を体験させることをモットーとしたい。

その一つとして、学部学生が休暇を利用して先輩を職場に訪ねるという、魚水会を介した社会勉強やインターンシップを行えないものかとも考えています。

大学法人化の次期6年間に、鹿児島大学は進取の気性をもって果敢な教育と研究を行うこと、「食と安全」、「環境」、「島嶼」を柱とすることになりました。水産学部もこの方針に従った学部運営が行われることになります。

21世紀も10年を過ぎた所ですが、今後の水産業への貢献を忘れることなく、しかも新たな水産科学や海洋科学の展開に向けた方向性の検討も、今の学部には必要なことであり、それが水産学部の持続的な発展に不可欠と考えています。

同窓生の皆様が自慢できるような学部に進化させることが私どもに与えられた責務です。今後とも魚水会の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

同窓生の顔

東横システム株式会社 代表取締役社長
山　崎　孝　助さん(47G・49M)

電話の応対ぶりによって、その会社の社風が判ると言われる。本稿の取材のために、山崎さんの会社に電話をした。秘書らしき女性社員の応対が実に見事であり、行き届いた社員教育がうかがえる。

東京都大田区の池上本門寺に近い一角に在る山崎さんが社長を努める〔東横システム株式会社〕を訪ねた。

堂々たる3階建ての自社ビルである。すれちがう度に社員が見も知らぬ私に挨拶をくれる。この躾けをした山崎社長ご本人の厳格さぶりを勝手に想像し、心が引締まる思いである。

案に相違して、柔和な笑顔の山崎さんが現れた。

「私の経営理念は、出会いと約束の企業経営です、その一つが〈新家族主義〉です。

社長は親父、社員は子供として位置づけ、私の理念に賛同し、この指止まれで、止まってくれた社員に少しでも幸せな人生を歩んで貰いたい、そのための一環として礼儀とマナーには口うるさく指導しています」。

東横システム株式会社とは一体どのような事業目的を持った会社だろうか。筆者のように生涯を水産食品業界で過ごした者にとって、このようなIT産業は対極にある事業分野に思える。

「ひとことで言えば、組込み技術のソフトを使った自動化システムを開発する会社です。判り易い例

としてはゴルフ場の貴重品ボックスの暗証番号での開閉システムであり国内の全てが当社の製品です。更に指の動脈にて認識するシステムを開発中です。その他デジタルカメラ、駅の自動改札機、食堂の食券販売機と厨房との連動システム等々、当社のシステムは全国各地で高いシェアを持っております。」

山崎さんは、熊本県芦北郡出身、中学1年の時、母親が死産の末に42歳で他界するという悲しい体験を経ておられる。その時、人の命のはかなさを知り、短い人生ならば自分に賛同する人と共に少しでも幸せな人生を送れればと、会社を興すことを決意したという。

自動化システム業界に身を投じる

「起業資金を、マグロ延縄漁船に乗船し稼ごうと考え、鹿児島大学水産学部漁業学科に進学しました。学部では田口一夫先生の下で、衛星航法システム（GPS）を専攻しました。」

しかし、マグロ漁業の衰退により、マグロ船乗船を断念し、東京の電波機器メーカーに5年間の約束で就職する。

これら、GPSに係わった経験が、水産学部出身としては一見無縁に思える自動化システム関連の起業を決めるきっかけになったであろうことは頷ける。

「電波機器メーカー勤務は、当初の約束どおり5年で辞しました。起業の夢を叶えるための資金調達は、一介のサラリーマンでは無理だと考えたからです。

そこで、完全歩合制の百科事典のセールスに転身し、約3年半で起業の元手を蓄えることが出来ました。」

販売業で最も過酷と言われるのが、いわゆる訪問販売である。いくら夢を叶えるためとは言え、大企業での安定した勤めを捨ててまで訪問販売の世界に飛び込むのは、大きなリスクを伴う。われわれ凡人の発想の及ばないところであり、ここに山崎さんの初志貫徹の凄さを感じる。

東横システム株式会社、資本金3千万円、社員数159名、平成21年度売上高21億円、経常利益3億4千万円という優良会社である。

財務分析でも全ての指標が超優良のランクにあるのは素晴しい。

「皆さんは、私に向って成功者だと言いますが、私はそうは思いません、社長を退くまでは成長者だと言っています。船の舵の代わりに経営の舵を長年取って参りましたし、これからも更なる成長を目指して取続けなければなりません」。

昭和57年創業以来の無借金経営を貫き、且つ事業の成長と安定のためには、他社に先んじた絶え間ない研究と開発が欠かせない、と言う。

「その上、このような先端産業は常に新技術の開発競争という危機感にさらされています。私はこの危機感こそをビジネスチャンスを生むエネルギーとせよ、と社員に言い聞かせております」。

〈人見るもよし、人見ざるもよし、我は咲くなり〉を座右の銘として来た。しかし、還暦を迎えてからは、〈我のみの力にあらず、今あるは、あまたの人の恵みなりけり〉を銘としている。

昭和49年鹿児島大学大学院水産学研究科修了、横浜市青葉区に夫人とご子息の3人暮らし、62歳趣味はゴルフと仕事と言い切る。

（文責：草場博幸　32S）